

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|    |                  |
|----|------------------|
| 所在 | 世田谷区 4 - 2 - 1 0 |
| 園名 | 上用賀保育園           |

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

園庭に自然（草・花・虫）を呼ぼう！  
身近な自然に触れ合える園庭、そして可動式遊具などを使い自分たちで考えながら遊びが広がる園庭づくり

#### <テーマの設定理由>

園庭には大きな桜の木などたくさんの木々に恵まれ、アリやダンゴムシなどに興味を持ち捕まえたり観察したりと楽しんでいる。身近な草花や土（雑草など）がある環境を作り、そこでの様々な発見や疑問に向き合っていく。また、可動式の遊具がいくつかあるものの、子どもたちが主体的に十分に遊べる環境設定には不足がある。子どもたちが考えながら、遊びを組み立てたりさまざまな好奇心が満たされたりする園庭の環境を構成していく。

### 2. 活動スケジュール

- ◎ 1 期（4、5 月）
- ・子どもたちの興味に合わせてテーマを設定する。
- ◎ 2 期（6 月～8 月）
- ・購入品の検討、見積もりをする。

◎3期（9月～12月）

- ・子ども、保護者にプロジェクトの内容を周知する。
- ・自然作り開始  
土づくりを子どもたちと行い、草や花を植える。  
草花に水をあげて生長を観察する。
- ・園庭に机やベンチを設置  
砂場で作ったままごとや虫の観察などで机を使用する。

◎4期（1月～3月）

- ・枯れたプランターの整理  
春に虫や草花を呼ぶためには？を子どもたちと一緒に考え、種や球根を植えていく。
- ・春の花や虫を調べる  
虫を呼ぶためには何が必要かを子どもたちと一緒に調べていく。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・ままごと遊びで使えるよう、砂場の近くに可動式のベンチと机を設定する。
- ・草花ゾーンを作り、草や花を植えたプランターを並べる。また、栽培物をその横に設定する。カラスが栽培物をつつく可能性があったため、ネットをかける。
- ・子どもが使いやすいジョウロを手の届くところにかける。
- ・砂場遊具をかごに入れ、内容が分かりやすいように写真をつける。収納棚を砂場横に設定し、子どもが自分で出し入れできるようになった。

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・土を作る目的を子どもたちと話し、虫を呼ぶことができるような環境を作るために花や草を植えていった。
- ・見つけた虫や咲いた花を調べる際には園庭に設定された机を使用して観察を行う。
- ・草花や育てている野菜を分かりやすくするために、表示を作成する。

### ＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

花を植える際、保育者がその都度、花の種類や名前を伝えながら一緒に植えたことで、子どもたちは「自分が植えた花」への思い入れを持つようになった。球根を植えた子どもは「どんな花が咲くのかな」と期待を膨らませ、水やりをしながら日々の生長に関心を寄せていた。植物の名前や特徴を知ること、自然への興味を深める関わりを意図した。猫じゃらしを植えているときには、「これは猫じゃらしだね」と名前を知っている子の姿や、「なんで植えるの?」と疑問を持つ姿が見られた。そこから保育者と一緒に「イネ科の植物にはどんな虫が来るかな?」と考える時間が生まれた。自然物同士のつながりに気づき、探究心を育てる関わりを意図した。気になる花を見つけると、子どもが自ら図鑑をプランターの近くに持ってきて「このお花はこれ?」と見比べる姿があった。保育者が「花びらの形はどうか?色は似ている?」と問いかけながら一緒に考えることで、花の名前を自分で見つける経験につながった。自ら調べ、考える姿を引き出すための関わりを意図した。今回の活動では、「**自然に触れながら主体的に関わる園庭づくり**」というテーマに沿って、植物の名前を知る、虫との関係を考える、図鑑で調べる、遊具を使って遊びを広げるなど、子どもたちが自ら考え、試し、発見する姿が多く見られた。保育者はその都度、問いかけや情報提供を行い、子どもの興味が深まるよう意図的に関わったことで、園庭が「学びと遊びがつながる場」として豊かに機能していた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

虫や花など、子どもが気になったことに対して、図鑑や関連する絵本を自分で持ってきて調べようとする姿が見られた。これは、園庭に自然を取り入れたことで、「身近な自然に触れた経験が、主体的な探究心につながっている」ことを示している。自然物に出会う環境を整えたことで、子どもが“知りたい”という気持ちを自ら行動に移すようになり、主体的な学びを生み出す園庭づくりの効果が表れている。自然物に触れる機会が増えたことで、“興味 → 調べる → 気づく”という学びの循環が生まれている。これらの姿から、自然に触れながら主体的に遊びをつくる園庭づくりというテーマが、確実に子どもの育ちに反映されていることの気づきを得ることが出来た。